

「辞書は新しいのがいい」構文について

野田尚史

1. 「～は～が……」構文

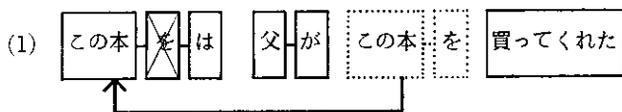
「この本は父が買ってくれた」「象は鼻が長い」といった「～は～が……」という形をとる文は、日本語ではかなりよく見られるものである。しかし、表面的には「～は～が……」という形をとる文も、その構造や成立条件などを考えると、いろいろのタイプのものがあり、かなり複雑な様相を見せる。このような「～は～が……」構文を分類し、そのひとつひとつについて、その構造や機能を考えることは、「は」と「が」の研究のなかで残された大きな課題のひとつだと思われる。

この論文では、「～は～が……」構文の中のひとつのタイプである「辞書は新しいのがいい」型について扱う。その前提として、この型が「～は～が……」構文の中でどのような位置にあるのかを見るために、まず、この節で、「～は～が……」構文の分類を行う。以下に示すように、①から⑥に分類し、②はさらに②Aと②Bに分け、全部で7つに分類する。¹⁾

① 「この本は父が買ってくれた」型

これは、「～が」「～を」「～に」「～で」といった格成分、あるいは格助詞をともなわない「きょう」「去年」のような時の成分が主題化されて「～は」になったためにできた「～は～が……」構文である。

「この本は父が買ってくれた」を例に図示すると、次のようになる。



この文にはもともと「父がこの本を買ってくれた(こと)」という論理関係がある。この中の「この本」が主題として指定されると、「この本を」が文頭に出て「は」がつき、「を」は消去されて、「この本は父が買ってくれた」ができるというわけである。

次のような例がこの型のものとしてあげられる。

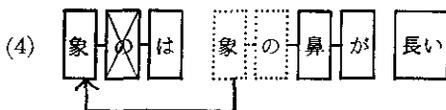
(2) 将棋の世界は四段から一人前と認められましてね、酒を飲んでもいい時期は師匠が決めるんです。(あまから手帖 1986. 10 p. 50)

(3) 「秋晴れ」の言葉とうらはらに秋は雨が多い。(朝日新聞 1982. 9. 30夕1 あすの天気)

(2)は「～を」が主題化されたもの、(3)は「～に」が主題化されたものである。

②A 「象は鼻が長い」型

「～が」の連体修飾成分「～の」が主題化されて「～は」となったためにできた「～は～が……」構文である。図示すると、次のようになる。



この型の例としては、次のようなものがある。

(5) とくに麗紅は色鮮やかで粒が大きく、市場での入気も高い。(毎日新聞 1984. 2. 4朝12)

(6) 「サンチェが『日本の野球はレベルが低い』としゃべったのを新聞で読み、腹が立っていた。絶対打ってやろうと思っていた」(朝日新聞1986. 4. 26朝19)

②B 「カキ料理は広島が本場だ」型

名詞述語「～だ」の連体修飾成分「～の」が主題化されてできた「～は～が……」構文である。(7)のように図示できる。



例としては、(8)、(9)のようなものがある。

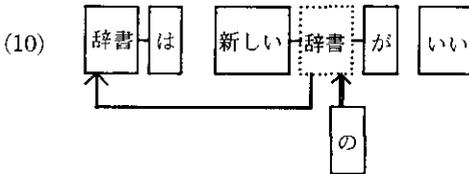
(8) 鳥取県産の二十世紀ナンは、これからが出荷のピーク。(朝日新聞1983. 9. 9朝13)

(9) 「生物季節観測」は、身の回りの動植物の観察を通じて気象の変化や異常を知るのが目的で、北は稚内、南は沖縄の南大東島まで全国百二十カ所の管区・地方气象台で観測が行われている。(朝日新聞1986. 8. 23夕1)

この型の文の構造や成立条件、機能などについては、野田(1982)でくわしく述べたので、そちらを見ていただきたい。

③「辞書は新しいのがいい」型

この型の文は、「[連体修飾成分]+[名詞]が」の[名詞]のほうが主題化されたものである。図に示すように、名詞が出ていったあとに「の」「もの」などが入る場合がある。



例を2つあげておく。

(11) 狙う河川の川幅によって異なるが、サオはやや長めが有利だ。(朝日新聞1987. 3. 12夕10 あらかると)

(12) 道路の幅は大路が奈良尺で八十尺(二三・八メートル)、小路が四十尺です。(奈良の寺々 106)

この型が今回の論文でとりあげるテーマである。

④「この問題は解くのがむずかしい」型

これは、節の中の格成分が主題化されてできた「～は～が……」構文である。



(13)を例にすると、もともと「この問題を解くのがむずかしい(こと)」という論理関係がある。そして、「この問題を解く」という節の中の「この問題を」が主題化されれば、「この問題は解くのがむずかしい」ができるのである。(14)、(15)のような例がこの型に該当する。

(14) しかし、外側に書かれてある記号のようなものは、だれにも読むことができなかつた。(盗賊会社 148)

(15) 今回のニカラグア侵攻は FDN・米国・ホンジュラスの共同作戦である可能性が極めて高い。(毎日新聞1983.3.26朝4)

⑤「この花はいいにおいがする」型

「気がつく」のような「～が……」という形の慣用句を含む場合である。



次のような例がある。

(17) ところがその日の昼過ぎ、私は天水桶から亀くんの姿が消えているのに気がついた。(牛久沼のほとり 44)

(18) 自治省は最近、なんとなく氣勢が上がらない。(朝日新聞1983.4.10朝2 記者席)

⑥破格型

①から④のようなきちんとした論理関係に戻せないような型である。このような文が生まれるのは、なんらかの重複や脱落によることが多い。次のような例があげられる。

(19) 自由席は10号車、11号車、12号車のあとより3両が自由席です。(北陸本線特急雷鳥の車内アナウンス 1984.1)

(20) その日の智子さんのハジャギ方は、そんな生活史が一挙に噴きだしたようであった。(風の自叙伝 218)

2. 「辞書は新しいのがいい」構文の構造

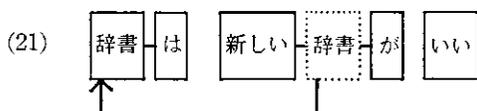
この節では、前の節で分類した③「辞書は新しいのがいい」型について、そ

の構造や成立条件を、次の順序で考える。

- 1) 「新しいの」の部分の名詞性
- 2) 「辞書」の部分と「新しいの」の部分の関係
- 3) 述語の種類
- 4) 「は」「が」の交替

1) 「新しいの」の部分の名詞性

「辞書は新しいのがいい」型の文は、前にも見たように、「新しい辞書がいい(こと)」という論理関係をもとに、主題と指定された「辞書」が文の先頭に出、それに「は」がついてできたものである。²⁾



このとき、上の図の点線で囲んだ「辞書」がなくなると、「辞書は新しいがいい」となり、おかしい文ができる。これは、「が」の前が名詞でなければならないのに、そうになっていないからである。「が」の前を名詞にするためには、「辞書」が抜けたあとに「の」「もの」などを入れる必要があるのである。⁸⁾

このように「が」の前は名詞でなければならないのであるが、この「新しいの」の部分があるどのような名詞になるかによって、次に示すように、(a),(b),(c)の3つタイプがある。

(a) 「辞書は例文の多いものがいい」タイプ

これは、「例文の多い辞書がいい」の「辞書」のところに、「もの」のような名詞としての代用表現が入るタイプである。「辞書」の部分に修飾する成分が「例文の多い」のように名詞性がないものときは、かならずこのような代用表現が入る。

代用表現としては、もとの名詞の性質によって、「もの(物)」「者(もの)」「人」「ところ」「やつ」などが使われる。(22)は「もの」、(23)は「ところ」が使われた例である。

(22) 挿し穂はなるべく大きいもの (大型種で 30 cm, 小型種で 20 cm ぐらい) がよいでしょう。(園芸ガイド '87 初夏号 54)

(23) 学生アパートは鍵の作りが簡単で、ドライバー一本でこじ開けられるところが多い。(朝日新聞1984. 5. 31朝23)

そのほか、「の」も使われる。ただ、「の」の場合は次のような点が上にあげたものと異なる。それは、「辞書」の部分⁴⁾を修飾する成分が「[名詞] の」の場合（たとえば「白水社の辞書」）、「*白水社のの」とはならず「の」がひとつ落ちた「白水社の」になることである。⁴⁾ (24)のような例がある。

(24) 京で賞味する「若狭もん」のサバは春のがおいしい。(朝日新聞1981. 9. 24夕14 お台所メモ)

(b) 「辞書は白水社がいい」タイプ

これは、(a)とはちがって、「新しいの」の部分に「もの」「の」などの代用表現が現れないタイプである。このタイプになることができるのは、「辞書」の部分⁵⁾を修飾する成分が「[名詞] の」のとき（たとえば「白水社の辞書」）に限られる。これは、「白水社の」の「白水社」が名詞であるので、「もの」や「の」の助けがなくても「が」の前に位置してよいからである。⁵⁾

(25) 依頼件数と年商は、二大興信所が約百万件の二百五十億円、探偵社の大手、帝国秘密探偵社が約十万件五十億円、中小の経済興信所や零細探偵社は四十万件二百億円となり、五百億円産業となろうか。(興信所42)

(26) 実施時間は、到着ロビーが午後二時から同六時まで、サテライトが午後二時から同八時まで。(日本経済新聞1987. 8. 2朝26)

(25) のもとの論理関係は「二大興信所の依頼件数と年商が……」「帝国秘密探偵社の依頼件数と年商が……」であり、(26)の場合は「到着ロビーの実施時間が……」「サテライトの実施時間が……」である。

(c) 「辞書は新西和辞典がいい」タイプ

このタイプも、(b)と同じく、「新しいの」の部分⁶⁾が「新西和辞典」のような名詞である。(b)とちがう点は、「新西和辞典の辞書」という論理関係に戻せないことである。戻せないのは、「新西和辞典」の中に「辞書」という概念が含まれているため、それにまた「の辞書」をつけるのがおかしいからである。

このタイプの文の場合、「新西和辞典がいい(こと)」がもとになり、「新西和辞典」の「辞書」という概念が主題化されたものと見ることができる。そして、このとき、「新西和辞典」は「辞書」という語ともうひとつの語というふうには分解できないので、「新西和辞典」から「辞書」が主題として抜けても、残り⁷⁾はやはり「新西和辞典」として残るわけである。

言いかたをかえると、「新西和辞典」というのは「新西和辞典という辞書」ということであり、そのうちの「辞書」が主題になり、「新西和辞典」が残ったということもできる。

(27), (28) のような例がこれに当たる。⁹⁾

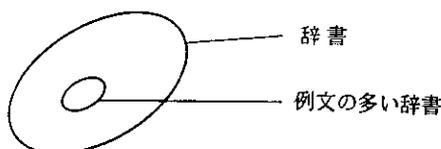
(27) ベゴニア=写真右下=は、中輪のラブミーやピーターソン、大輪のリーガースベゴニアが暖かい室内でよく育ちます。(朝日新聞 1985. 12. 10 朝13)

(28) 理科は物理が得意だった。(ムツゴロウの青春記 166)

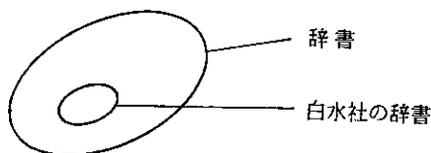
2) 「辞書」の部分と「新しいの」の部分の関係

「辞書は新しいのがいい」の「辞書」と「新しいの」の関係は、「(新しいの→) 新しい辞書」という集合が「辞書」という集合に含まれるような関係になっている。

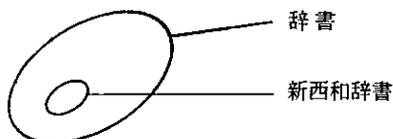
たとえば、前の (a) タイプ「辞書は例文の多いものがいい」では、「(例文の多いもの→) 例文の多い辞書」という集合が「辞書」という集合に含まれる。



(b) タイプ「辞書は白水社がいい」でも、「(白水社→) 白水社の辞書」という集合が「辞書」という集合の一部になる。



(c) タイプ「辞書は新西和辞典がいい」でも、「新西和辞典」が「辞書」の一部になっている。



つまり、「辞書」の部分は広い意味での総称名詞であり、「新しいの」の部分はその一部を指すのである。

したがって、「私」「あなた」「山田さん」「メキシコ」のような、ただひとつのものしか指せない名詞を「辞書」の部分に持ってきて、「辞書は新しいのがいい」構文にすることはふつうできない。

(29)ア すなおなあなたがいい (こと)

イ # あなたはすなおなのがいい。

(29)アから(29)イをつくっても、イは「あなたはすなおで、そのすなおところがいい」というような別の意味になってしまう。

ただし、次のような例では「あなた」をいくつもの局面に分けているので、(30)イは言えそうである。

(30)ア すなおなときのあなたがいい (こと)

イ あなたはすなおなときがいい。

また、「メキシコ」でも、「メキシコ」という名のチェーン店であれば、いくつもの「メキシコ」があるわけで、(31)イのように言えそうである。

(31)ア 四谷のメキシコがいい (こと)

イ メキシコは四谷がいいよ。

(30)、(31)のような場合は、「あなた」「メキシコ」が、ただひとつのものを指すのではない使い方になっているので、この構文に使えるようになるのである。

次に、「辞書は新しいのがいい」のもとの論理関係「新しい辞書がいい」で、「新しい」の部分「辞書」の部分に対してどのような修飾をおこなっているかということ、それは、典型的には、広い意味で、種類や性質を限定するような修飾ということになるだろう。「新しい辞書」「例文の多い辞書」「白水社の辞書」など、みなそう考えることができる。反対に、「辞書は新しいのがいい」構文になりにくいのは、関係を表すような修飾のときのようなのである。

(32)ア 結婚するなら、中小企業の社長の息子がいい (こと)

イ * 結婚するなら、息子は中小企業の社長のがいい。

ウ * 結婚するなら、息子は中小企業の社長がいい。

「中小企業の社長の息子」のような関係を表す修飾の場合は、(32)のように、イ、ウの形は成り立ちにくい。

3) 述語の種類

「辞書は新しいのがいい」型の文は、「いい」の部分にくる述語の種類によって、それぞれ特徴もっている。ここでは、述語の種類によって、(a)形容詞

型, (b)名詞型, (c)動詞型に分け, (a)をさらに2つに, (c)を3つに下位区分する。

(a) 形容詞型

この構文に使われる形容詞は, 典型的には, 「いい」という意味を表すものと, 「多い」という意味を表すものの2種である。

(a)-1 「いい」タイプ

述語としては, 「いい」のほか, 「適当」「妥当」「無難」「理想的」「有利」など, さらに「いい」の意味を含んでいる「おいしい」「きれい」「好き」「得意」「ほしい」などが使われる。

- (33) てり焼きうづぼは生を使うより一夜干しが味がいい。(あまから手帖 1985.2 p.46)

反対に, 「悪い」の意味を表す「だめ」「よくない」「不適當」「不利」などは使いにくい。これらが使われるときは, (34)のように「～は～では……」という形になることが多い。

- (34) ご飯は, 動物性蛋白・動物性脂肪が入らないので, 当然白米ではだめで, 玄米飯を持参。(みんなちがってみんないい 118)

このように「いい」タイプの形容詞が使われ, 「悪い」タイプが使われないのはなぜだろうか。基本的に, この形容詞型の文は, 「辞書」の中から「新しい辞書」を選び出すという機能を持っているのであるが(次の節, 3. 「辞書は新しいのがいい」構文の機能のところでも詳しく述べる), 現実には, 「これがいい」と選び出すことが多く, 「これが悪い」と選び出すことはあまりないからであろう。

「これがいちばん悪い」と悪いものを選び出す文脈があれば, 「悪い」タイプの形容詞もこの構文の述語になれる。(35)は, 全国11番目の政令指定都市を競いあう堺, 仙台, 千葉三市の現状比較の新聞記事である。はじめに人口を比べて堺がトップであることを述べ, 次に「市税の収入でも堺がトップ」と続き, その説明のあと, 段落が変わって, 次の文がくる。

- (35) 財政状況を示す経常収支率は堺がもっとも悪い。(朝日新聞1983.10.11 朝21)

この文脈では, 経常収支率がもっとも悪い都市を三市の中から選ぶということなので, 「悪い」が述語になれるのである。

(a)-2 「多い」タイプ

「多い」「圧倒的」などが述語に使われるタイプで次のような例がある。

(36) 申し合いでの指名回数は保志が最も多い。(毎日新聞 1985. 1. 10 朝15)
「多い」タイプの場合も、反対の意味の「少ない」「多くない」などは、「悪い」などと同じような理由で使いにくいようである。

(b) 名詞型

名詞が述語に使われる例としては、次のようなものがある。

(37) 集中豪雨の日本記録は、二十四時間値が昭和三十二年七月二十五日、長崎県諫早市での一、一〇九^{mm}、一時間値が昭和十九年十月十七日、高知県足摺岬での一五〇^{mm}。(朝日新聞1981. 7. 4朝1 きょうの天気)

(38) この日の『献立』は朝食が乾草を立方形に固めたヘイキューブ、テンサイ(砂糖大根)のかすを固めたビートパルプ、稲ワラの粗飼料と、外国産麦、トウモロコシ、大豆かすなどを配合した濃厚飼料。昼食はビールかすと濃厚飼料。夕食は牧草、デントコーンなどをサイロで発酵させたサイレージと稲ワラ。(毎日新聞1985. 6. 24朝16 牛乳を考える)

この名詞型の文には、次のような特徴がある。この文を「XはYがZ」とすると、

- (i) ZはYの数値・数量、または内容である。——(37)ではZが数値、(38)ではZが内容になっている。
- (ii) Yは、1)「新しいの」の部分の名詞性の分類では(b)タイプの名詞である。——(37)では「二十四時間値」「一時間値」、(38)では「朝食」と、いずれも(b)タイプの名詞である。
- (iii) ほとんど、並立構文(あるいは対比構文)として使われる。つまり、「YがZ」の部分が2つ以上現れるということである。——(37)は一文の中に「YがZ」が2つ、(38)では三文にわたるが「YがZ」「YはZ」を含めて)が3つ現れる。

(c) 動詞型

述語に動詞が使われる場合については、(c)-1 特定タイプ、(c)-2 並立タイプ、(c)-3 数量タイプに下位分類できる。

(c)-1 特定タイプ

(39)のように、YがXの種類を特定するようなものである。

(39) シートはロングとクロスが配置され座ぶとん、背ざりぶとんはモケッ

ト張りである。(鉄道ファン317 p. 60)

このタイプでは、YがXの種類を特定するのであるが、Xの中からYが選択されたというような意味がある場合が多く、その点で、(a)形容詞型のもと相通じるところがある。

(c)-2 並立タイプ

(40)のように、「YがZ」が2つ以上、並立して現れるタイプである。

(40) 1983年度ノーベル賞の受賞式は10日、物理、化学、医・生理学、文学、経済学の5部門がスウェーデンのストックホルムで、平和賞がノルウェーのオスロで行われる。(朝日新聞1983.12.4朝14 高校生のための「現代社会」)

これは、(b)名詞型と相通じるところがある。

(c)-3 数量タイプ

これは、YがXの数量を表すもので、動詞型に特有のタイプである。

(41) 竜は刀身に巻き付けた柄金具(長さ六寸、幅四寸)の両面に太さ一、前後の毛彫りで、二頭が象眼されていた。(毎日新聞1984.12.13夕1)

4) 「は」「が」の交替

この論文のはじめ、1.「～は～が……」構文のところ、「～は～が……」構文を分類したが、それぞれの型によって、「Xは」が「Xが」になったり、「Yが」が「Yは」になったりできるかどうかが違う。ここでは、「辞書は新しいのがいい」の「辞書は」が「辞書が」になれるか、「新しいのが」が「新しいのは」になれるかどうかを考える。⁷⁾

はじめに、「辞書は」が「辞書が」になれるかどうかであるが、これはほとんどなれないようである。

一般に、「～ば」「～とき」「～ため」など従属度の高い従属節の中には「～は」は現れず、「～が」(または、ほかの格助詞)になる。⁸⁾(42)は、「辞書は新しいのがいい」構文が「～ため」節の中に入ったものであるが、「住人は」は「住人が」(あるいは「住人に」)にかわっていない。

(42) 何よりも、このアパートはハーレムのはずれにあって、住人は黒人よりもプエルトリコ人の家庭が多いため、黒人家族と接するには不適當だ。(アメリカ合州国 61)

ただし、「～は」がぜったい「～が」にかわれないというわけではない。(43)はわかりにくい例ではあるが、「エゾシカが」と「～が」になっている。

(43) かつて北海道が大豪雪に見舞われて、エゾシカが、食糧とするササや下草が雪の底に埋もれてしまったために夥しい数が餓死して、そのために絶滅してしまっただけではないかと心配されたことがあった。(ツルはなぜ一本足で眼るのか 16)

一方、「新しいのが」が「新しいのは」になる可能性であるが、これは、特に並立構文の後のほうなど、強い対比性があれば可能である。

(44) この夏の冷房化率は国鉄が七%アップの七三%、大手私鉄は五%アップの八〇%——国鉄関西輸送計画室と私鉄五社は十八日、年々進む近畿圏での冷房化計画を発表した。(朝日新聞1983.5.19朝22)

(44)のような、述語が名詞の並立構文では、後のほうの「～が」が「～は」となることがかなりある。

3. 「辞書は新しいのがいい」構文の機能

「辞書は新しいのがいい」構文の機能について、文としての機能と、主題の選択に関する機能の2つに分けて考える。

1) 文としての機能

この構文の文としての機能については、ア) 選択・特定、イ) 並立、ウ) 数量特定の3つをあげることができる。

これらの機能は、以下に見るように、前節の3)で述語の種類を考えたときの分類、(a)-1 形容詞型「いい」タイプ、(a)-2 形容詞型「多い」タイプ、(b) 名詞型、(c)-1 動詞型特定タイプ、(c)-2 動詞型並立タイプ、(c)-3 動詞型数量タイプとの対応がある。

ア) 選択・特定

選択・特定という機能をもつのは、(a)-1、(a)-2、(c)-1のタイプの文である。

(a)-1 形容詞型「いい」タイプの例としては、次のようなものがある。

(45) ソーメンは、なるべく細いタイプの方がいい。(BE-PAL 74 p. 210)
このタイプの文は、(45)に即していうと、いろいろのソーメンの中から、細いという性質をもったソーメンを選択したことを述べるために使われる。そして、この選択はふつう好ましいものを選ぶ場合が多い。

形としても、選択ということから、「(Y₁ より) Y₂ のほうがいい」「Y がいちばんいい」「Y がとくにいい」といった形で出てくる場合がかなりある。また、形としてこのようになっていなくても、「X は Y がいい」といえば、意味的に「Y がいちばんいい」「Y のほうがいい」ということである。

(a)-2 形容詞型「多い」タイプの例としては、(46)のようなものがある。

(46) 場所は、久里浜と網代湾が特に多い。(つり人 1987.9 p. 150)

このタイプの文も、(46)に即していうと、いろいろの場所の中では久里浜と網代湾という場所が多いことを述べるときに使われる。場所の中から多いところとして久里浜と網代湾を選択し、特定しているといえる。

(c)-1 動詞型特定タイプとしては、次のような例がある。

(47) 冷房装置は冷房能力 24000 kcal/h の屋根上集中型ユニットクーラが 1 台搭載されており、架線の直流 600V を静止形インバータによって 3 相交流 200V に変換してクーラを運転している。(鉄道ファン317 p. 58)

このタイプの文でも、「冷房能力 24000 kcal/h の屋根上集中型ユニットクーラ」が「冷房装置」の種類を特定しているといえる。こうした動詞型特定タイプの文は、「X は Y」と「Y が Z」がふたつ合わさった文、(47)の例でいうと、「冷房装置は冷房能力 24000 kcal/h の屋根上集中型ユニットクーラだ」と「冷房能力 24000 kcal/h の屋根上集中型ユニットクーラが搭載されている」が合わさった文という感じをうける。

イ) 並立

並立の機能をもつものとしては、(b)タイプと(c)-2タイプがある。

(48)は(b)名詞型の例であり、(49)は(c)-2動詞型並立タイプの例である。

(48) この高い原料を精製して作る砂糖の価格は八七年の場合、日本が一ト二十四万七百五十円。米国は六万九千五百八十円、EC は九万九千七百三円で、こちらも二・四一三・四倍高い。(日本経済新聞1987.8.2朝21)

(49) 実はノブドウは白、紫、青が混ってなるが、エビヅルは黒一色に熟す。

(BE-PBL 74 p. 64)

これらは、(50)に示すように、Yが2つ以上でXが共通のとき、Xを主題にたてて述べるというものである。

(50)ア [Y₁ の X が Z₁] + [Y₂ の X が Z₂]

主題

主題

イ X は Y₁ が Z₁, Y₂ が Z₂。

実際には、「X は」と言いはじめたが、X に 2 種類（あるいは 3 種類以上）あることに気がつき、「Y₁ が Z₁, Y₂ が Z₂」と続けるという場合もあるであろう。

ウ) 数量特定

これは、次の例のような、(c)-3 動詞型数量タイプの場合である。

- (51) 続出している大阪の変造百円玉は三日未明、大阪市港区内のスナックの清涼飲料水自動販売機から 3 枚が見つかり、これで計六百六十枚となった。(毎日新聞1982. 5. 3朝19)

この種の文では、数量を表す「3 枚が」を「3 枚」というように副詞的に使っても、意味はあまりかわらない。「3 枚が」のほうの文が使われるのは、実際にはどのような場合であろうか。

その前に、「3 枚」のほうを使った文を考えてみると、これには (52) のアとイがある。

- (52) ア 大阪の変造百円玉は 3 枚見つけた。

イ 大阪の変造百円玉が 3 枚見つけた。

アのほうは、変造百円玉について何枚見つけたかを言うときに使われ、イのほうは、「変造百円玉が見つけた」という出来事を述べる現象文として使われる。

問題の (51) の文は、アのように「変造百円玉」について述べたいと同時に、イのように「変造百円玉が見つけた」という出来事も現象文として述べたいという場合に苦肉の策として使われるのであろう。

2) 主題の選択に関する機能

「辞書は新しいのがいい」型の文は、「新しい辞書がいい (こと)」の「辞書」という被修飾名詞を、その修飾部「新しい」を残したまま、主題にするというかなり無理な主題化を行ってできたものである。このような主題化が行われるのは、「辞書」だけを主題にしなければならないという必然性がある場合だと考えられる。ここでは、「辞書」の部分が主題として選ばれる必然性を、文脈の中での主題のつながりという点から見てみよう。

たとえば、(53) のアとイを一つの文で言いたいとする。イでは「観光客」を主題とするのが自然であるので、アについても「観光客」を主題にしたいとする。

- (53) ア バック旅行の観光客が多い (こと)

主題

イ 観光客が本土資本のホテルに泊まり地元をうるおさない（こと）
主題

そうすると、アについては、「辞書は新しいのがいい」型の構文を使わざるをえなくなり、(54)の文ができあがるというわけである。

(54) それに観光客はパック旅行が多く本土資本のホテルに泊まり地元をうるおさない。(朝日新聞1985.12.9夕4 ルポ '85)

(55)も同じような例である。

(55) ベルトコンベアは、東芝やソニーなどのテレビ、テープレコーダーの組立作業を見たことはあるけれど、自動車工場のは初めてだ。(自動車絶望工場 22)

次の(56)は、前文からの主題のつながりを示す例である。この例では、第1文で「チキンピジョン」が出てくる。第2文で、これを主題にしたいと思うと、「辞書は新しいのがいい」型の構文になるのである。

(56) チキンピジョンを加えます。チキンピジョンは鶏ガラからとったものが理想的ですが、固形スープを利用してかまいません。(あまから手帖1987.4 p. 40)

(57)も同じように、前文からの主題のつながりを示す例である。

(57) 一方、こうした情勢に関連して、国防総省は AWACS の改良機をサウジアラビアに派遣することを決定した。米軍の AWACS は現在も四機がサウジアラビアにおり、偵察行動を続けているが、国防総省によると、この旧式の AWACS は高速度の飛行機や船舶の動きしかとらえられないため、低空を低速度で飛んでいる戦闘機や船舶の双方を監視し追跡出来る改良型と交替させるとしている。(朝日新聞 1984.6.6夕1)

4. 「辞書は新しいのがいい」構文の周辺

この節では、「辞書は新しいのがいい」型の構文と、ほかの構文との関連・つながりを見ていく。1)「辞書は新しいのを買いなさい」構文との関連をのぞいて、2)から 6)までは、第1節で分類したほかの型の「～は～が……」構文との関連である。

1) 「辞書は新しいのを買いなさい」構文との関連

「辞書は新しいのを買いなさい」という文は、「新しい辞書を買いなさい」を

もとにして、その中の「辞書」が主題になってできた文である。次のような例がある。

(58) あわびは活けのものを選び、殻からはずして塩でよく洗い、酒 7、水 3 の割合の鍋で 2 時間くらいゆがきます。(あまから手帖 1986. 11 p. 40)

(59) 便所やシャワー室は、各階に一カ所ずつある共同のものを利用する。
(アメリカ合州国 57)

この型の文が「辞書は新しいのがいい」型と違う点は、「新しいのが」の「が」のところ「新しいのを」と「を」になっている点だけである。そのほかの点では、「辞書は新しいのがいい」構文と同じと考えてよい。

「を」が出てくるということから、述語は当然、動詞に限られるが、「新しいの」の部分の名詞性、「辞書」の部分と「新しいの」の部分の関係など、「辞書は新しいのがいい」構文と共通する。この型に使われる動詞も、典型的には「選ぶ」という意味を含んだもので、「辞書は新しいのがいい」構文の選択・特定という機能と同じである。

この論文では「～は～が……」構文に的を絞ったため、「辞書は新しいのを買いなさい」型の文はとりあげなかったが、本来なら、「辞書は新しいのがいい」構文と統一した扱いをすべきものである。

2) 「この本は父が買ってくれた」構文との関連

「辞書は新しいのがいい」構文と「この本は父が買ってくれた」構文とのつながりが見られるのは、ひとつは、(60)のような文である。

(60) POUM に直結する労働組合はなかったので、党員は UGT に加入している者が多かった。(スペイン内線 56)

(60) のもととの文としては、(61) のアとイが考えられる。

(61) ア UGT に加入している党員が多かった (こと)

イ 党員に UGT に加入している者が多かった (こと)

(60) が (61) アからできたと考えれば、(60) は「辞書は新しいのがいい」型の文になり、(61) イからできたと考えれば、(60) は「この本は父が買ってくれた」型の「～に」が主題化された文となる。

このようなことがおこるのは、述語が「(～に) 多い」「(～に) ある」などの場合のほか、「(～に) 有力」「(～に) 使う」などの場合である。

(62) 都心側の発着所は、竹芝ふ頭、月島ふ頭、豊州が有力。(毎日新聞 1987. 8. 5朝23)

「辞書は新しいのがいい」構文と「この本は父が買ってくれた」構文とのつながりが見られるもうひとつは、(63)のような文である。

(63) 野党が批判を集中させる経済問題は、とくに失業が深刻だ。(朝日新聞1986.6.3朝7)

この文は、もとの形として、(64)のアとイが考えられる。

(64) ア 失業という経済問題が深刻(なこと)

イ 経済問題で失業が深刻(なこと)

アと考えれば、(63)は「辞書は新しいのがいい」型の文、イと考えれば「この本は父が買ってくれた」型の「～で」が主題化された文となる。

3) 「象は鼻が長い」構文との関連

(65) 害虫は、オンシツコナジラミやワタカイガラムシ、シクラメンハダニなどが発生します。(園芸ガイド'87 初夏号 72)

(65) は、もとの形として、(66)のアとイを考えることができる。

(66) ア オンシツコナジラミという害虫が発生する(こと)

イ 害虫のオンシツコナジラミが発生する(こと)

アと考えれば「辞書は新しいのがいい」型になり、イと考えれば「象は鼻が長い」型になる。ただ、この場合は、イと考えるよりアと考えるほうがよい。それは、イでは「害虫の」が「オンシツコナジラミ」の性質を限定しているが、このような限定のしかたのものが「象は鼻が長い」型の構文になることはほかにないからである。

しかし、(67)になると、もとの文は(68)のアともイとも考えられる。したがって、「辞書は新しいのがいい」型とも「象は鼻が長い」型とも言えるのである。

(67) 三陸鉄道の36形は、検査時を除いて今回初めて久慈所属車が南リアス線へ、大船渡所属車が北リアス線へ入線することになった。(鉄道ファン317 p.109)

(68) ア 久慈所属車の36形が南リアス線へ入線することになった(こと)

イ 36形の久慈所属車が南リアス線へ入線することになった(こと)

4) 「カキ料理は広島が本場だ」構文との関連

「辞書は新しいのがいい」型と「カキ料理は広島が本場だ」型とのつながりを示す例も多い。

(69) 女性アルコール症者の夫の職業は、管理・専門職が二二%で最も多い。

(朝日新聞 1981.7.4朝13)

(69)のものと形を(70)アと考えれば、「辞書は新しいのがいい」型、(70)イと考えれば、「カキ料理は広島が本場だ」型になる。

(70)ア 管理・専門職といふ職業が二二% (であること)

イ 管理・専門職が職業の二二% (であること)

次の(71)では、ものと形として、(72)のアとイのほかウも考えられる。

(71) コウモリの肉は昨年暮れに食べたのが初めて。(朝日新聞 1985.5.14
夕2人きのうきょう)

(72)ア 昨年暮れに食べたコウモリの肉が初めて (であること)

イ 昨年暮れに食べたのがコウモリの肉の初めて (であること)

ウ 昨年暮れに食べたのが初めてのコウモリの肉 (であること)

アかウと考えれば、「辞書は新しいのがいい」型、イと考えれば、「カキ料理は広島が本場だ」型になる。「最初」「初めて」などが述語になる文は、「カキ料理は広島が本場だ」型の中でも特殊であることは野田(1982)で述べたが、ここでも(72)ウのような形が考えられる点で特殊である。(72)ウのようなものと形が考えられるのは、そのほか、「最高」「最上」などが述語に使われた場合である。

5) 「この問題は解くのがむずかしい」構文との関連

(73) 女は一人の男性だけを思っているほうが幸せだと考えている人が多いけれど、そんなことはないとは私は思うのです。(炎のように火のように 204)

(73)のものと形としては、(74)のアとイを考えることができる。

(74)ア 一人の男性だけを思っている女が幸せ (なこと)

イ 女が一人の男性だけを思っているほうが幸せ (なこと)

アなら「辞書は新しいのがいい」型、イなら「この問題は解くのがむずかしい」型となる。

(75) 民主政治を守るうえで、補助金は少ない方がよい。(朝日新聞 1980.
8.30朝4 行政革命 補助金と政権党)

(75)も(76)のアとイの両方が考えられる。

(16)ア 少ない補助金が良い (こと)

イ 補助金が少ない方がよい (こと)

6) 破格構文との関連

次の例は「～は～が……」構文にはなっていないが、「辞書は新しいのがいい」型と破格型をつなぐものと見ることができる。

(77) 花は桜 魚は鯛 【本の題名】 (朝日新聞1985.12.14朝1 広告)

(77)は「花は桜がいい」の「がいい」が省略されたもので、「辞書は新しいのがいい」型の文をもとにした破格型の文である。(78)もよく似た例と言えらるう。

(78) スーツは、この季節なら麻かコットンで軽やかに。(BE-PAL 74 p. 130)

5. ま と め

以上、述べてきたことを簡単にまとめておこう。

- (i) 「辞書は新しいのがいい」構文は、「新しい辞書がいい(こと)」という論理関係をもとに、「辞書」の部分が主題化されてできた文である。
- (ii) 「辞書は新しいのがいい」構文は、その構造や機能から考えて、典型的には、次の2種類がある。
 - (あ) 選択型——「辞書は新しいのがいい」のように、「辞書」の中から「新しいの(新しい辞書)」を好ましいものとして選択する。述語は、典型的には、「いい」をはじめとする形容詞。
 - (い) 並立型——「値段は L サイズが 500 円, S サイズが 300 円だ」のように、「～が……」の部分が2つ以上あるもの。述語は、典型的には、数値、内容などを表す名詞。
- (iii) 「辞書は新しいのがいい」構文は、ほかの「～は～が……」構文とのつながりをもっている。つまり、ほかの型の「～は～が……」構文といろいろなところで接点をもち、連続しているということである。

【注】

- 1) この分類は、野田(1982)の分類と基本的に同じである。なお、ここでいう「～は～が……」構文には「～は」と「～が」が完全に別々の述語に支配されている次のような例は含まない。

例 『スーパーマリオブラザーズ』は、主文公マリオがレンガ状のブロックで迷路状に構成されたコースを、スタート地点からゴールまで走り抜けるゲームだ。(広告批評96 p. 47)

- 2) 三上(1960)では、「xノX」の「ノX」が抜け出す(つまり主題化される)としているが、それより「X」が抜け出すと考えたほうがよいと思われる。その理由を2つあげよう。

ひとつは、この種の構文のいろいろのタイプのもを統一的に説明するためには「X」が抜け出したと考えるほうがいいからである。三上があげた「鼻は、象が長いよ」では、「象の鼻」の「の鼻」が抜け出して「象」が残ったと考えることもできるだろう。しかし、「辞書は新しいのがいい」では「新しい辞書」に「の」が含まれていないので、「辞書」が抜け出したとしか考えられない。さらに、「タコは明石のがいい」では、「明石のタコ」の「のタコ」が抜け出したと考えると「タコは明石のいい」となり、それにわざわざ「の」をつけくわえるということをしなければならない。そうではなく、「明石のタコ」の「タコ」が抜け出したと考えれば、「タコは明石のいい」となり、自然に派生できる。

もうひとつの理由は、「xのX」が「x」と「のX」に分かれることの不自然さである。日本語では助詞は前の成分につくと考えたほうがよく、「xの」と「X」に分かれるとするほうが自然である。また、三上のように考えると、「のX」の「の」を消去しなければならなくなるが、そのような規則は、ほかには見あたらないアドホックなものとなる。「xの」の「の」が消去されると考えるほうが自然である。

- 3) 「新しい辞書がいい(こと)」から「辞書は新しいのがいい」を生成するには、理論的には、次のように考えるのがよいと思われる。

(i) 新しい辞書がいい

主題

↓ 主題と指定された名詞句のコピーを文頭にチョムスキー付加する

(ii) 辞書【新しい辞書がいい】

↓ 文頭に付加された名詞句に「は」をつける

(iii) 辞書は【新しい辞書がいい】

↓ 同一名詞句を代用表現にかえる

(iv) 辞書は【新しいのがいい】

これについては、日本語の主題化全般、さらにほかの言語における主題化を統一的に扱えるという内容の別の論文で論じることにし、ここでは簡便な書きかたをとる。

- 4) 名詞の代用として「もの」や「の」が使われるのは、この構文に限ったことではなく、一般的なことである。たとえば、つぎの例では、「発売」の繰り返しを避けるために、後ろの「発売」を「もの」にかえている。

例 コインの収集熱は不況の中でも上がる一方だが、マニアの間で人気のある英国王立造幣局発行の八二年度コインコレクション＝写真＝が、日本でも発売された。

六月から流通する新20^ギ白銅貨の発行を記念してのもので、一セット千八百円。
(朝日新聞1982.5.5朝23 青鉛筆)

- 5) このように「[名詞₁]の[名詞₂]」の[名詞₂]が予想しやすすいとき、「の[名詞₂]」が省略されるのは、次の例のように、日本語ではよく見られることである。

例 彼と私はめいめいに自分の煙草に火をつけた。彼のはケント、私_ははマーボロ

だ。(アメリカ 587)

- 6) 「魚は鯛がいい」のような文は、この (c) のタイプとして「辞書は新しいのがいい」構文と見るが、これについては、これまでいろいろな見方がされてきた。

三上 (1960) では、「笛は、横笛いみじうをかし」を「笛 (類概念)ノ横笛 (種概念) ガタイヘンオモシロクアル koto」と無題化し、ここでいう「象は鼻が長い」型の構文と考えている。

Nakau (1973) と Muraki (1974) も、「魚は鯛がいい」は「魚の鯛がいい」から出てきたものとし、ここでいう「象は鼻が長い」型としている。

久野 (1973) では、「魚は鯛がいい」は次のような構造から派生するものとし、「魚は」という主題は深層構造の段階から存在するという。

[[魚ハ] 主題 鯛 [イイ] s] s

(これは、[[魚ハ] 主題 [鯛 イイ] s] s の誤りか?)

久野は「太郎はこの本を書いた」のような文は次のような構造から派生したものと考えるので、

[[太郎ハ] 主題 [太郎 コノ本 書イタ] s] s

「魚は鯛がいい」と「太郎はこの本を書いた」は、異なった構造をもつことになる。

柴谷 (1978) では、「魚は鯛がいい」は次のような深層構造から派生されると考える。

[魚は [鯛がいい] (これは、[魚は [鯛がいい]] の誤りか?)

題目 述部

一方、「甲は乙に丙を紹介した」のような文は、「甲が乙に丙を紹介した」という深層構造に題目化規則がかかってできるとする。柴谷は、「魚は鯛がいい」のような文の題目を先行、「甲は乙に丙を紹介した」のような文の題目を代行として区別している。

それに対して、私のこの論文では、「魚は鯛がいい」のような文を、「辞書は新しいのがいい」型の構文のひとつと考え、「太郎はこの本を書いた」や「甲は乙に丙を紹介した」のような文と基本的に同じ規則で扱えるという見方をしている。

- 7) 「～は～が……」構文のほかの型での「～は」から「～が」、「～が」から「～は」への交替の可能性については、おおまかには、野田 (1985) で述べたので、そちらを見ていただきたい。
- 8) 詳しいことは、野田 (1986) を見ていただきたい。

参考文献

久野 障 (1973) 『日本文法研究』大修館書店 (主に、20章)

柴谷 方良 (1978) 『日本語の分析』大修館書店 (4章)

Nakau, Minoru (1973) *Sentential Complementation in Japanese*. Kaitakusha. (II. 2)

野田 尚史 (1982) 「カキ料理は広島が本場だ」構文について 『待兼山論叢 日本学篇』15号 大阪大学文学部

野田 尚史 (1985) 『日本語文法セルフ・マスターシリーズ 1 はとが』くろしお出版 (p. 65)

- 野田尚史 (1986) 複文における「は」と「が」の係り方 『日本語学』5巻2号 明治書院
 三上章 (1960) 『象は鼻が長い』くろしお出版 (主に、一章8)
 三上章 (1963) 『日本語の論理』くろしお出版 (主に、三章二)
 Muraki, Masatake (1974) *Presupposition and Thematization*. Kaitakusha. (IV. 1)

例文出典

- 朝日新聞 [1982.3 まで] 朝刊13版 (大阪北部版), 夕刊3版 朝日新聞大阪本社
 [1982.4 から 1985.3 まで] 朝刊14版 (大阪北部版), 夕刊4版 朝日新聞大阪本社
 [1985.4 から] 朝刊13版 (茨城県南版), 夕刊3版 朝日新聞東京本社
 日本経済新聞 朝刊12版 (首都圏版) 日本経済新聞社
 毎日新聞 [1985.3 まで] 朝刊14版 (北摂版), 夕刊4版 毎日新聞大阪本社
 [1985.4 から] 朝刊13版 (茨城県南版) 毎日新聞東京本社
 『あまから手帖』 [1985.7 まで] 京阪神エルマガジン社
 [1985.12 から] あまから手帖社
 『園芸ガイド』 主婦の友社
 『広告批評』 マドラ出版
 『つり人』 つり人社
 『鉄道ファン』 交友社
 『BE-PAL』 小学館
 小田実 『アメリカ』 角川文庫 1976
 本多勝一 『アメリカ合州国』 朝日新聞社 1970
 住井すゑ 『牛久沼のほとり』 暮らしの手帖社 1983
 野本三吉 『風の自叙伝』 新宿書房 1985
 露木まさひろ 『興信所』 朝日新聞社 1981
 鎌田慧 『自動車絶望工場』 徳間書店 1973
 野々山真輝帆 『スペイン内戦』 講談社現代新書 1981
 小原秀雄 (他) 『ツルはなぜ一本足で眠るのか』 草思社 1984
 星新一 『盗賊会社』 講談社文庫 1973
 太田博太郎 『奈良の寺々』 岩波ジュニア新書 1982
 長嶺ヤス子 『炎のように火のように』 文春文庫 1985
 山崎万里 『みんなちがってみんないい』 せせらぎ出版 1986
 畑正憲 『ムツゴロウの青春記』 文春文庫 1974